

放射線カウンセリングで気になっていること

(室月 淳 2012 年 1 月

27 日)



低線量被曝のリスクについて、それがほんのささやかなものであっても、それを説明することによって相手の不安感をかきたててしまうことがあります。低線量被曝についてはいろいろと調べてきましたが、福島にすむ人たちのリスクというのは、ほんとうに気に病むレベルではありません。たとえば発癌リスクでいえば喫煙習慣のほうがよほど高く、その差は何百倍というオーダーです（ただし喫煙者は自分の楽しみのためにそれを受けいれているのですが、福島のひとつたちにとってはみずからの意思とは関係ないところのものであり、直接比較はできません）。

もし相談が自分の子どもたちから相談されたらどうするか？ まちがいなく、だいじょうぶだ、心配なくていいというにちがいありません。リスクはじゅうぶんに低いのだから、そんなことはわすれてふつうに暮らすことがいちばん幸せであるし、結局のところ人生の「リスク」の総体は、それがもっとも低くなると思うのです。それで万が一なにかがおきたら、そのときは家族としていっしょにたちむかっていくしかありません。

しかし「カウンセリング」ではそういったかたちで責任をとることはできません。安心しなさいとはなかなかいえないのです。どんなに低いリスクであっても事実は告げざるをえません。それが相手の不安を募らせ、場合によってはまわりの偏見や差別をひきおこすことにもなります。

ご感想ご意見などがありましたらぜひメールでお聞かせください
アドレスは murotsuki@yahoo.co.jp をつけたものです

[遺伝子の時代と遺伝カウンセリングに戻る](#)

[室月研究室トップにもどる](#)

室月淳 (MUROTSUKI Jun) にもどる

フロントページにもどる

カウンタ 50 (2013 年 1 月 27 日より)